

和歌山工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	企業実践講座	
科目基礎情報						
科目番号	0077		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	環境都市工学科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	1		
教科書/教材	プリント配布					
担当教員	津田 尚明 ,山東 篤					
到達目標						
<p>企業活動の概要を理解し、説明できる。          企業を取り巻く環境や制度の概要を理解し、説明できる。          企業を維持するための施策や活動を理解し、説明できる。          企業の状況を表すデータの概略を理解し、説明できる。</p>						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
企業活動の概要	企業活動の概要を理解し、説明でき活用できる。		企業活動の概要を理解し、説明できる。		企業活動の概要を理解、説明できない。	
企業を取り巻く環境や制度の概要	企業を取り巻く環境や制度の概要を理解し、説明し活用できる。		企業を取り巻く環境や制度の概要を理解し、説明できる。		企業を取り巻く環境や制度の概要を理解、説明できない。	
企業を維持するための施策や活動	企業を維持するための施策や活動を理解し、説明し活用できる。		企業を維持するための施策や活動を理解し、説明できる。		企業を維持するための施策や活動を理解、説明できない。	
企業の状況を表すデータの概略	企業の状況を表すデータの概略を理解し、説明し活用できる。		企業の状況を表すデータの概略を理解し、説明できる。		企業の状況を表すデータの概略を理解、説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
A B JABEE A JABEE B						
教育方法等						
概要	この科目は企業における経営、研究、生産管理等の実務経験者からその経験を活かして講義形式で授業を行うものである。実際の企業活動の概要について学ぶ。また企業を取り巻く環境や制度、企業を維持するための種々の施策や活動について、実例をもとに学習する。更に企業の状況を表すデータの読み方を理解する。併せて、業種と職種を考慮する力、質疑応答の時間に初対面の講師に質問するコミュニケーション力、他人の話を聞きながらメモをとりその場でレポートにまとめる力を養う。					
授業の進め方・方法	本校の担当教員の司会進行のもと、外部講師による講義形式。					
注意点	(COC) 毎週講師が代わるため、出席することが重要であることと、レポート評価となるためレポートの提出が重要となる。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標		
		1週	オリエンテーション、授業概要、講師陣紹介	オリエンテーション、授業概要、講師陣紹介		
		2週	企業活動の概要（企業理念等）	企業活動の概要（企業理念等）		
		3週	企業組織の概要（取締役会、事業部制、部課制等）	企業活動の概要、企業と従業員の関係		
		4週	品質保証の実際（Ⅰ）	品質保証の実際（Ⅰ）		
		5週	品質保証の実際（Ⅱ）	品質保証の実際（Ⅱ）		
		6週	製品開発の手法と実際（Ⅰ）	製品開発の手法と実際（Ⅰ）		
		7週	製品開発の手法と実際（Ⅱ）	製品開発の手法と実際（Ⅱ）		
	4thQ	8週	工場生産の実際	工場生産の実際		
		9週	物流と販売の実際	物流と販売の実際		
		10週	社会人としての常識、マナー	社会人としての常識、マナー		
		11週	企業の社会的責任・リスクマネジメント	企業の社会的責任・リスクマネジメント		
		12週	企業の地域活性化に向けた取り組み	企業の地域活性化に向けた取り組み		
		13週	和歌山県の実情	和歌山県の実情		
		14週	企業における情報管理	企業における情報管理		
		15週	期末試験			
16週	起業するには（資金、従業員、届け出等）	起業するには（資金、従業員、届け出等）				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後16
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	後2,後3
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	後2,後3

			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	後2,後3
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	後2,後3
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	後2,後3,後14,後16
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	後14,後16
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	後10,後11,後14,後16
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	後4,後5,後6,後7,後8,後9
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	後4,後5,後6,後7
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	後10,後11
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	後2,後3,後10,後11
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	後2,後3,後12,後13
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	後8,後9,後12,後13
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	後4,後5,後6,後7
評価割合					
			レポート	合計	
			総合評価割合	100	100
			配点	100	100